

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】令和2年4月1日現在

圏域人口：56,022人(↓) 矢印は前回との比較

高齢者人口：13,571人(↑)

(克明2,957人(↑) 桜塚2,425人(↑))

熊野田2,685人(↑) 南桜塚2,909人(↓) 泉丘2,595人(↑)

高齢化率：24.22%(↑)

(克明27.79%(↑) 桜塚24.60%(↑))

熊野田23.71%(↑) 南桜塚22.92%(↑) 泉丘22.55%(↑)

【圏域の特徴】

豊中市の中心に位置し、阪急豊中駅、岡町駅、曾根駅各駅前の商業地域、戦前から高度成長期にかけて開発された住宅街の克明、桜塚、南桜塚各校区、農村地域だった熊野田校区、マンション群や団地を持つ泉丘校区の5校区からなる。校区によりニーズが異なるため、各校区の実態に合わせた取り組みが必要と感じている。

センターの取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

地域包括ケアシステム構築に向け、「地域に住む、支援が必要な高齢者を一人も孤立させない」という心構えを持って、「高齢者になっても安心して暮らせるまちづくり」を最終的な目標とし、地域支援を推進していく方針に基づいて各事業に反映している。

【特に力を入れて活動している点】

「高齢者になっても安心して暮らせるまちづくり」を実現するために、絶えず地域に出向いて、的確に状況や課題を把握し、各校区の持つ特性や強みを活かすことに力を入れている。

【活動の中での課題やその解決策】

問題を抱えていても自ら声を上げない、誰からも気づかれない高齢者が地域に存在している。孤立しているなど支援を必要とする人を見逃さないよう「きめの細かいセーフティネット」を構築することを課題にしている。

構築には、人や組織、機関とのつながりを増やし、その1本1本の線を太くする必要があると考えている。セーフティネットの網の目からこぼれ落ちない体制を作るために、より細かいネットワークづくりに向けて、絶えず地域に

出向き、住民との交流により点と点をつないで線に、線と線をつないで面に変えることが解決策に通じるとの考えのもと活動を続けている。

【その他】

本センターと分室が途切れてしまわないように、日々の共有のために朝礼はインターネットを介するとともに、月に 2 回職員会議を通して担当する校区や事業の共有を図っている。職員会議の開催場所に本センターと分室を交互にしていくことで、職員が相互になじめる環境を整えている。

総評

【特徴的な取り組み内容】

- ① 地域での連携強化にあたっては、相互のスキルアップをめざした取り組みが行われており、その目的や考え方などが共有されています。
- ② 介護予防では、利用者の意欲と興味を維持し、利用者がわかりやすい目標設定や計画の評価が行われています。
- ③ 運営法人である豊中市社会福祉協議会の各種事業を活かした地域活動が行われています。また、地域の福祉人材の育成、連携強化といった社会的使命も果たしています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

運営法人である社会福祉協議会と、相互の目的と役割を明確にし、さらに連携を強化することで、支援の向上に繋げることが望まれます。